



宿泊行事と自立

校長 伊藤 栄司

長い夏休みが終わり学校に元気な子どもたちの声が戻ってきました。夏休み中の様々な体験や1学期に身に付けた学びの力を活かし、子どもたち一人一人が輝くことができるよう2学期も指導していきます。

宿泊学習

4年生は7月22日、23日の2日間、保田臨海学校に出かけました。4年生の中には、初めて家族以外の人と一緒に宿泊する子、初めて海で泳ぐ子もあり、初めて経験することばかりの臨海学校です。出発式では子どもたちに、「我慢しなければならないこともたくさんありますが、皆と協力して楽しく過ごしましょう」と話をしました。親元を離れ不安そうな顔をする子、楽しい海での遊びを想像しながらわくわくした気持ちを抑えきれない子、一人一人の思いを受け止めつつバスに乗り込みました。

保田での生活

猛暑の東京と比べると気温は27～8度、心地よい海風が吹くと涼しく感じるほどです。また、海の透明度も高く、腰までつかっても足元が見えるくらい水が澄んでいました。子どもたちは教育委員会が用意してくれたゴムボートやボディボード、ビート板などを使って、グループごとに海水浴を楽しみました。

海から宿舎に戻るとすぐにお風呂です。外のシャワーで砂を流し、お風呂セットを持って風呂場に向かいます。様子を見ているとバスタオルを持って湯船に入ろうとする子、裸になってから荷物を置いてきたことに気づく子、小さなハンドタオルで体を洗い始める子など、家のお風呂とは違う共同浴場の入り方は経験の差が出ます。事前に学級でも説明はするのですが、聞くだけでは難しいようで、毎年同じような景色が広がります。

自分でできる

それぞれの部屋に戻ると、荷物整理が始まります。家から着て来た服や下着、明日着る服、洗面用具にタオルなどを、とりあえず全部広げて友達と遊びだす子、何もしないで遊びだす子、綺麗に整理しながら次の日に着るものを準備してから遊びだす子など、ここでも経験の差や性格の違いが見られます。この光景も毎年の事なので、引率の教員が声をかけたり一緒に片付けたりしながら一つずつできるようにしていきます。

もともとできない訳ではないので、「自分でできたね」「綺麗だね」「頑張ったね」と褒めてあげると有能感からできるだけ自分で頑張ろうとする様子が見られます。その後も布団敷、食事の準備片付け、朝の検温、退室準備と自分の力で乗り越える場面は続きます。バスに乗って、学校につく頃には、やり切った満足感から凛々しい顔つきになっている子どもも見られます。

不便を学び乗り越える

一人で乗り越えることができた内容のほとんどは、普段、近くの大人に頼っている事なので自分の力でやり抜いたことは大きな自信につながります。子育ての大きな目標である「子どもの自立」はこうした経験の積み重ねによって身についていきます。毎日の生活では不便を感じることはない子どもたちも、あえて作り出された不便な2日間によって、自分で考え大きく成長できたのです。今回の学びで得た力は、5年生の孺恋自然体験交流教室、6年生の箱根移動教室で発揮される事でしょう。2学期も様々な経験を通して子どもたちが大きく成長するお茶の水小学校にしていきます。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。